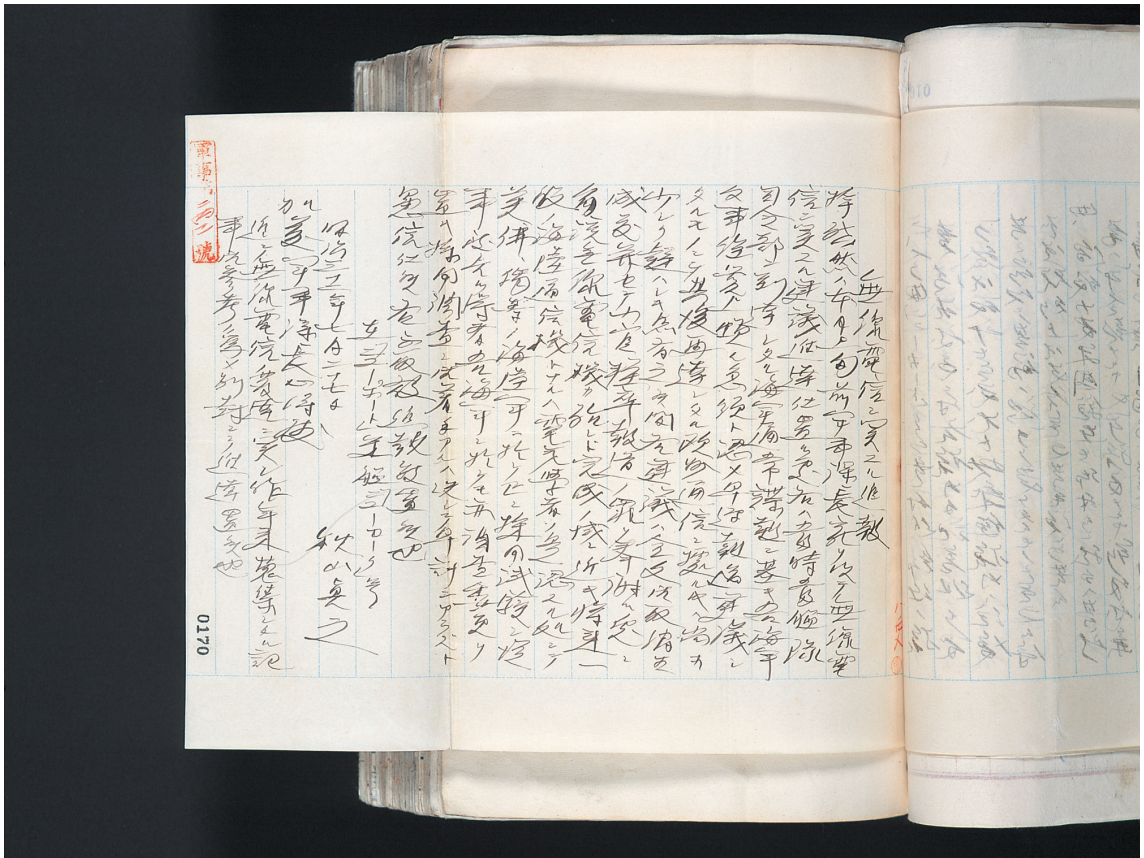


史料紹介

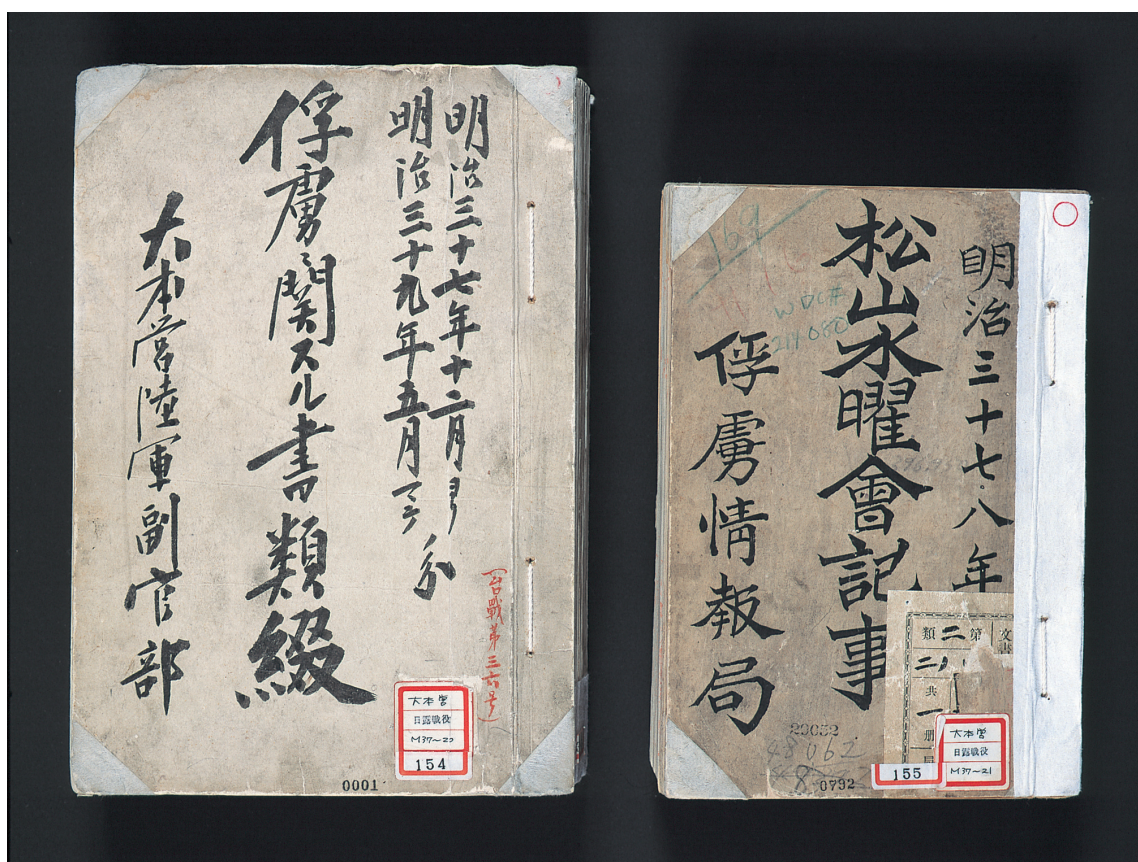


秋山真之大尉から加藤軍事課長心得に宛てた手紙

『坂の上の雲』（司馬遼太郎著）で有名な秋山真之大尉（大正6年中将）は、明治32年2月8日～9月4日の期間、研修のため米国北大西洋艦隊「ニューヨーク」号へ乗り組んだ。この間、彼は日本海軍の将来を見据え、参考とすべき事項を逐一海軍省へ報告していた。

この手紙は、7月27日付で海軍省軍事課長心得加藤友三郎中佐（大正12年元帥）に宛てたもので、「兎二角況（ますます）無線電信機力殆ンド完成ノ域ニ近キ将来一般ノ海陸通信機トナルハ電気学者ノ是認スル処ニテ英、仏、独等ノ海陸軍ニ於テ已ニ採用試験ニ従事致居候得者吾海軍ニ於テモ亦調査委員ヲ置キ採用調査ニ御着手アルハ決シテ早計ニアラズト愚信仕候」と述べている（公文備考明治三十二年・教育三・巻四）。

このように、無線電信について採用調査の必要性を強調していた秋山は、6年後に日本海海戦において、連合艦隊参謀（中佐）として活躍した。



日露戦争における俘虜に関する史料

本史料は、図書館史料庫に保存されている陸軍省大日記のうち、日露戦争における俘虜に関するもの3冊のうち2冊である。

左側は、『俘虜ニ関スル書類綴』（大本営・日露戦役・37－20）である。大本営陸軍副官部において受領あるいは発簡した協議、通知、資料送付、照会、通報、電報、通牒等が綴られている。

右側は、『松山水曜会記事』（大本営・日露戦役・37－21）である。日露戦争における松山収容所のロシア人俘虜について、収容時通訳が掌握した俘虜個人の状況が同収容所から俘虜情報局に報告されていた。「水曜会」の名は、俘虜と接触した通訳による状況報告の会議が毎週水曜日に行われたことに由来している。

俘虜関連の史料として、これらの他、俘虜に関する各部隊長の報告を纏めた史料『戦報』（大本営・日露戦役・37－22）がある。